

## 歯垢を可視化する歯磨きペーストで全身の炎症リスクが低減する可能性

口腔衛生状態が全身の炎症性疾患、とくに心筋梗塞や脳卒中と関連することが示唆されている。炎症はアテローム性動脈硬化症の病因と密接に関係しており、急性心筋梗塞や脳卒中のリスクマーカーである高感度 C 反応性蛋白質 (hs-CRP) により正確に測定される。本研究では、歯垢を識別できる歯磨きペースト「プラーク HD」の使用で hs-CRP が低下するかについてランダム化比較試験を実施し検討した。

血中 hs-CRP 濃度が 0.5-10.0mg/L の被検者 112 例を無作為にプラーク HD を使用する群とプラセボ群に割り付け、試験開始時と追跡時のデータが得られた 103 例を *intention to treat* (ITT) 解析の対象とした。サブグループ解析には、試験開始時の hs-CRP 濃度が 2.0-10.0mg/L であった 40 例を対象とした。解析の結果、ITT 解析では両群の hs-CRP 濃度に有意差はみられなかったが ( $p=0.615$ )、サブグループ解析ではプラーク HD 群の方が有意に低かった ( $p=0.047$ )。

今回の結果から、歯垢を可視化する歯磨きペーストの使用により、炎症のマーカーである高感度 C 反応性蛋白質が低減することが示された。

出典：American Journal of Medicine. 2020 Feb 17. pii: S0002-9343(20)30122-4.